

令和5年度第3回 三鷹市環境保全審議会議事録（要旨）

開催日時：令和6年2月8日（木） 午後3時30分から
クリーンプラザふじみ3階 研修ホール

<出席委員>

谷口委員、中嶋委員、志賀委員、荻野委員、是井委員、有馬委員、角田委員、藤沼委員、利谷委員、成田委員、山田委員、おばた委員、石井委員、平井委員、千葉委員

<傍聴人>

3人

<次第>

- 1 会長あいさつ
- 2 市長あいさつ
- 3 事務局より事務連絡
- 4 議事
 - (1) 三鷹市の温室効果ガス排出量について
 - (2) 第4期三鷹市地球温暖化対策実行計画（第1次改定）（案）について
 - (3) 第5次三鷹市基本計画（1次案）について
 - (4) その他

<配付資料>

- 資料1 三鷹市温室効果ガス総排出量等実態調査報告書（令和4年度実績）概要版
資料2 第4期三鷹市地球温暖化対策実行計画（第1次改定）案
資料3 第5次三鷹市基本計画（1次案）抜粋

<議事内容（要旨）>

- 1 三鷹市の温室効果ガス排出量について
 - ◇環境政策課長：資料1により、三鷹市温室効果ガス総排出量等実態調査報告書（令和4年度実績）について説明。
 - ◆委員：使用する電気をクリーンなものに変えることがポイントとなるが、市が再生可能エネルギーを導入するにあたり、課題はあるか。また、学校3部制により、学校が開いている時間が長くなり、電気の使用量は増えると考えられる。学校が使う電気を変え、さらに市民が使う電気も変えていくことが必要であり、啓発を進めるうえでの課題や見解はいかがか。
 - ◇環境政策課長：三鷹においてポテンシャルのあるエネルギーは、太陽光となる。公共施設への太陽光発電設備の設置については、今年度に設置可能性を調査しているところではあるが、どの施設にも載せられるものではなく、調査をしながら進めていく必要があることが課題である。また、市民の使うエネルギーについては、太陽光発電や高効率給湯器、さらに高

断熱窓の改修工事などへの助成を行い、市民の皆様にもPRしていく。

◆委員：購入する電気を、再生可能エネルギーで発電した電気などに切り替える考えはあるか。

◇環境政策課長：クリーンなエネルギーに切り替えることは、今後の課題と考える。

◇生活環境部長：クリーンなエネルギーは供給量が少なく、奪い合いとなる側面もあり、今後の状況改善も課題である。

◆委員：使う意欲を見せることで、改善を促すことも考えられる。

◆委員：学校ごとに排出量の差があるが、どのような要因が考えられるか。

◇環境政策課長：エアコンの導入状況、生徒数や教室数など、それぞれの学校によるエネルギーの使い方の差によると考える。

◆委員：学校においては、夜間でも多くの照明が点いたりするのを見かけるので、電気の使い方を工夫することで、より減らせる余地があるのではないか。

◇環境政策課長：学校が占める割合は大きいので、環境マネジメントシステムの活用などにより、削減を図っていくとともに、今後の削減につながるよう、より詳細な分析を検討していく。

◇生活環境部長：学校においては、環境教育も行われており、子どもたちの環境意識が高まっていることを感じている。

◆委員：温暖化対策実行計画の案において、公共施設の建替えや小中学校の大規模改修時に実施する空調設備の整備は、どのようなものを考えているか。

◇環境政策課長：学校だけに限らないが、大規模改修などの機会を捉えて効率の良いものに変えていこう、という考え方である。

2 第4期三鷹市地球温暖化対策実行計画（第1次改定）（案）について

◇環境政策課長：資料2により、第4期三鷹市地球温暖化対策実行計画（第1次改定）案について説明。

◆委員：公共施設の複合化による排出量の削減には反対である。学校のスペースは、子どもたちの人権であると考え。また、「緑化」はどのようなものを考えているか。

◇環境政策課長：様々なものがあるとは思いますが、屋上緑化やビオトープなどが考えられ、啓発を含めて進め、自然を生かした省エネなども考えていく。

◇生活環境部長：学校というのは、大人数が集まるという特性上、ある程度、多くのエネルギーを使うことはやむを得ないと考えており、教室の温度管理なども必要なことと考える。

◆委員：すべての学校で大規模改修が行われた場合、どの程度温室効果ガス排出量が減るか試算されているか。

◇環境政策課長：具体的には、それぞれの改修内容によるものであるが、大規模改修などの機会を捉えて、太陽光発電や断熱改修などを行っていくエネルギー削減を一つ一つ積み上げていくことが大事である。

◇生活環境部長：一般的には、空調設備などは新しいものに更新することで、消費エネルギーの削減が期待できる。

◆委員：埼玉県志木市の学校体育館では、空調設備と輻射パネルを設置するハイブリッド空調を取り入れて省エネを進めており、調査・研究をしてはいかがか。

◇環境政策課長：研究する。

- ◆委員：小中学校のエネルギー使用量データは、学校の当事者である小中学生と共有していくことが大事ではないか。これからの未来の財産である学生たちが、気付いて、自ら考えるきっかけとなるものである。
- ◇環境政策課長：教育委員会や学校とは共有しているが、学生たちに直接働きかけている状況ではなく、ホームページなども活用しながら広く共有していく。
- ◆会長：学校当事者との共有はとても大事であり、総合学習の時間などで取り組んでいる事例がある。また、アメリカの高校では、窓断熱の実施により 2,000 万円の電気代が削減された事例があり、それだけの燃料消費を削減したということである。建物自体の改修も大きな要因になる。
- ◆委員：環境は、大人だけで解決できる問題ではなく、いろいろな視点を持った子どもたちと共有することが大事である。
- ◆委員：市の事務事業において、学校の排出量の割合が高くなるのは、市の施設構成上はやむを得ない。しかし、市の全域から見れば、大きな割合ではなく、かかるコストを考えると、効果の高い対策を実施すべきである。
- ◇環境政策課長：市全域の民生部門のうちの一事業所である三鷹市の割合は、全体から見れば大きくないが、市の事務事業の大きな割合を占める学校の対策を進めることは重要であると考ええる。また、子どもへの啓発は、例えばふじみまつりなどの子どもが多く集まる機会に行ってきたが、これからも続けていく。
- ◇生活環境部長：コストとのバランスは、考慮しながら進めていく。
- ◆委員：2050 年を見据えると、技術の進歩があり、目先にとらわれず、先を見据えるのが良いのではないか。
- ◇環境政策課長：技術革新に期待するところはある。現在の計画に記載されていない技術が出てくれば、必ずしも計画にとらわれずに柔軟に新しい技術も取り入れて進んでいきたい。
- ◆委員：今の子どもたちは、環境意識が高まっており、学校で学んだ内容を各家庭に持ち帰ってもらうようなアプローチが有効ではないか。また、新しい技術が出てきた場合、計画はアップデートされていくのか。
- ◇環境政策課長：現在の計画に記載されていない技術が出てくれば、必ずしも計画にとらわれずに、事業を進めるなかで、柔軟に新しい技術も取り入れて進んでいきたい。
- ◆委員：市が管理する街路樹は、どれだけあるか。また、都道で桜の木が伐採されたが、意見をするには、都に言うしかないか。何か良い方法があるか。
- ◇生活環境部長：市が管理する街路樹は概ね 5,000 本程度ある。また、都道については、北多摩南部建設事務所になると思うが、東京都に意見を言うことはできる。
- ◆委員：桜の木は、市民の多くが楽しみにしており、これからもきれいな花を見られるのか心配しており、何か良い方法がないか。
- ◇生活環境部長：桜の木は、思い入れを持っている方も多いため、都道を管理する東京都も配慮しながら進めているとは思いますが、行政としては難しいところである。
- ◆委員：56 ページに記載されている市民の省エネ事例をすべての世帯が実践すると、88,000t の二酸化炭素を削減できると試算されている。現在の計画においては、目標達成に必要な二酸化炭素削減量は概ね 150,000t であり、非常に効果が大きいといえる。小さな取り組みで

あっても、多くの世帯が取り組むと大きな効果となることを周知してはどうか。
◇生活環境部長：分かりやすい表現を工夫していく。

3 第5次三鷹市基本計画（1次案）について

◇環境政策課長：資料3により、第5次三鷹市基本計画（1次案）について説明。

4 その他

特になし